

高等学校学習指導要領における地理科目の改訂の方向性（案）

平成28年6月13日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料12-1

科目の特徴

○持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する科目

○グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する科目

○地図や地理情報システム(GIS)などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する科目

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者を育成するために

現行地理A科目

地理A

(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察

- ア 地球儀や地図からとらえる現代世界
- イ 世界の生活・文化の多様性
- ウ 地球的課題の地理的考察

(2)生活圏の諸課題の地理的考察

- ア 日常生活と結び付いた地図
- イ 自然環境と防災
- ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査

資質・能力

社会的事象の地理的な見方・考え方

○地球規模の自然システムや社会・経済システムに関する理解，地理に関する情報を効果的に調べまどめる技能 など

○地理に関わる諸事象等の意味や意義，特色や相互の関連について，地域等の枠組みの中で概念等を活用して多面的・多角的

持続可能な社会づくりに求められる地理科目

を働かせて右の資質・能力を育む

に考察したり，地域にみられる課題を把握し，その解決に向けて構想したりする力 など

○持続可能な社会づくりに向けて，地球的，地域的課題を意欲的に追究しようとする態度 など

新必修科目

「地理総合」(仮称)

(1) 地図と地理情報システムの活用 GIS

⇒以降の地理学習等の基盤となるよう，地理を学ぶ意義等を確認するとともに，地図や地理情報システム(GIS)などに関わる汎用的な地理的技能を身に付ける。

(2) 国際理解と国際協力 グローバル

ア 生活・文化の多様性と国際理解

⇒自然と社会・経済システムの調和を図った，世界の多様性のある生活・文化について理解する。

イ 地球的な諸課題と国際協力

⇒地球規模の諸課題とその解決に向けた国際協力の在り方について考察する。

(3) 防災と持続可能な社会の構築 ESD

ア 自然環境と災害対応 防災

⇒日本国内や地域の自然環境と自然災害との関わりや，そこでの防災対策について考察する。

イ 生活圏の調査と持続可能な社会づくり

⇒生活圏の課題を，観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて捉え，持続可能な社会づくりのための改善，解決策を探究する。

「地理総合（仮称）」において重視する思考力等と授業イメージ（案）

平成28年6月13日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料12-2

項目構成（案）

重視する思考力, 判断力, 表現力等

問い と授業展開のイメージ

「地理総合」（仮称）

(1) 地図と地理情報システムの活用

- 地図上に表された事象と実際のできごとを関連付けて考察する力
- 考察したことを、目的に応じて地図等にまとめ、効果的に説明する力

(2) 国際理解と国際協力

ア生活・文化の多様性と国際理解

- 自然環境等に対応した世界の多様な生活・文化の意味や意義を理解し、自他の文化を尊重しつつ考察する力
- 考察したことを、資料を踏まえて説明する力

イ地球的な諸課題と国際協力

- 地球規模で見られる諸課題（環境、資源・エネルギー、人口、食料、住居・都市、民族・領土等）について多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、根拠を明確にして議論する力

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア自然環境と災害対応

- 国内各地の自然環境とそこで現れる災害の傾向性を関連付けて課題を把握し、多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、資料にまとめて説明する力

イ生活圏の調査と持続可能な社会づくり

- 生活圏に見られる課題について、その背景や要因等の分析に基づき、様々な解決策を吟味し、構想する力
- 構想したことを、実現可能性を指標に議論する力

「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせた授業展開

㉗ なぜ出生率と、人口増加率は一致しないのだろう

出生率の高い地域が必ずしも人口増加率が高いわけではないことを、GISを用いて階級区分図の重ね合せを行い、その地域的な要因を考察する。〔他に、統計資料の分析、主題図の作成などの主題を設定〕

㉘ どうしてアンデスでは、湖上で生活する人々がいるのだろう

アンデス高地の地形や気候等の自然環境の特徴から、湖上で生活する理由を見出し、生活の多様性とその必然性について考察させ、異文化理解を図る。〔他に、衣・食や宗教などの主題〕

㉙ なぜウガンダでは、生産性で劣る陸稲が生産されているのだろう

食料難に悩むウガンダに対して、どのような手段で食料増産を促すための支援が可能なのか。支援で直面した課題とその要因を探り、国際協力の在り方について考察する。〔他に、地球温暖化対策などの主題〕

㉚ ハザードマップを読んで、私たちの町の防災について考えよう

複数のハザードマップから地域の自然環境の特徴を読み取り、その情報を比較、関連付けて、各地域で想定される災害を考え、地域ならではの対応策を考察する。〔他に、災害復旧・復興、都市計画などの主題〕

㉛ フードデザート解消のため、どのようなまちづくりを目指すべきか

中心業務地区の衰退等を背景に、今後どのようなまちづくりを行うべきか、地域調査により収集した諸資料を分析し、分析結果を踏まえた生活圏の在るべき姿を構想する。〔他に、環境対策などの主題〕

<補足；「学習の系統性, 段階性」>

- ・ (1)の学習によって培った地理的な技能を、後の(2), (3)の学習や他教科・科目等の学習において実践的に活用する。
- ・ (2)と(3)のそれぞれ「ア」で把握, 考察したことを基に, 「イ」で議論, 構想する。
- ・ (2)で学んだ諸課題への対応策を, (3)の生活圏の諸課題解決の構想に生かす。(Think Globally, Act Locally)

構成原理

「地理総合（仮称）」は、主題を基に課題解決的な学習により、社会で生きて働く地理的実践力の育成の場として、「地理探究（仮称）」は、地理総合で習得した地理的な技能、見方・考え方を基に、世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で、現代日本に求められる国土像の在り方について構想することにより、高等教育での学びにも繋がる本格的な地理的探究の場として構成する。

現行地理B科目

地理B

- (1) 様々な地図と地理的スキル
 - ア 地理情報と地図
 - イ 地図の活用と地域調査
- (2) 現代世界の系統地理的考察
 - ア 自然環境
 - イ 資源、産業
 - ウ 人口、都市・村落
 - エ 生活文化、民族・宗教
- (3) 現代世界の地誌的考察
 - ア 現代世界の地域区分
 - イ 現代世界の諸地域
 - ウ 現代世界と日本

移行

拡充

資質・能力

社会的事象の地理的な見方・考

○世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容についての理解、地理に関する情報を効果的に調べまとめる技能 など

「地理総合（仮称）」で身に付けた学習の成果を活用し探究を深める科目

え方を働かせて右の資質・能力を育む

○世界の諸事象を系統地理的に考察する力や、世界の諸地域を地誌的に考察する力 など
○世界や日本の望まれる国土像や地域像の構築のため、進んで参加し貢献しようとする態度 など

- (1) 地図と地理情報システムの活用
- (2) 国際理解と国際協力
- (3) 防災と持続可能な社会の構築

新必修科目
「地理総合（仮称）」

地理探究（仮称）

(1) 現代世界の系統地理的考察 事象からのアプローチ

ア 自然環境 イ 資源、産業 ウ 人口、都市・村落
エ 生活文化、民族・宗教 オ 観光、交通・通信 等

⇒系統地理的に事象の規則性や傾向性などを考察する。
⇒それぞれに環境問題、食料問題などの関連諸課題を追究する。

(2) 現代世界の地誌的考察 地域からのアプローチ

ア 現代世界の地域区分
⇒地域の概念、地域区分の意義を考察し、実際に地域を区分する。
イ 現代世界の諸地域
⇒地誌的に地域の構造や変容などを考察する。
⇒地域ならではの諸課題と地球的課題の関連性を追究する。

(3) 現代日本に求められる国土像 総合的なアプローチ

⇒(1)(2)で学んだ世界の諸課題に対する系統地理的・地誌的な考察を踏まえ、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の在るべき国土像や地域像について展望する。